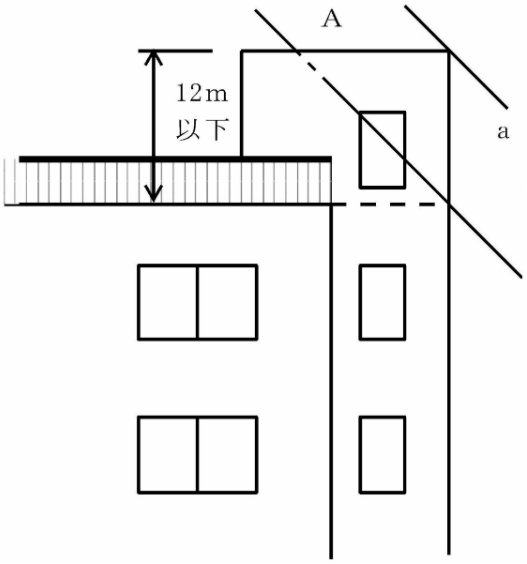
法第５６条 令第２条（建築物の各部分の高さ）

斜線制限における屋上突出物の取扱い

１．階段室等

階段室等に対する令第２条第１項第６号の適用は、屋上部分に限る。なお、北側斜線制限には適用がない。

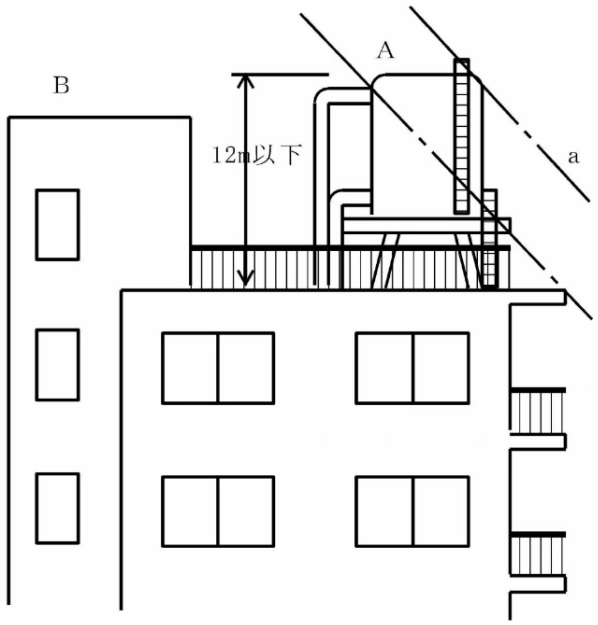


A ≦ 1／ 8 ×（建築面積）

ただし、北側斜線は a を採用

２．高架水槽等

高架水槽等に対しては令第２条第１項第６号の適用がある。なお、北側斜線制限には適用がない。

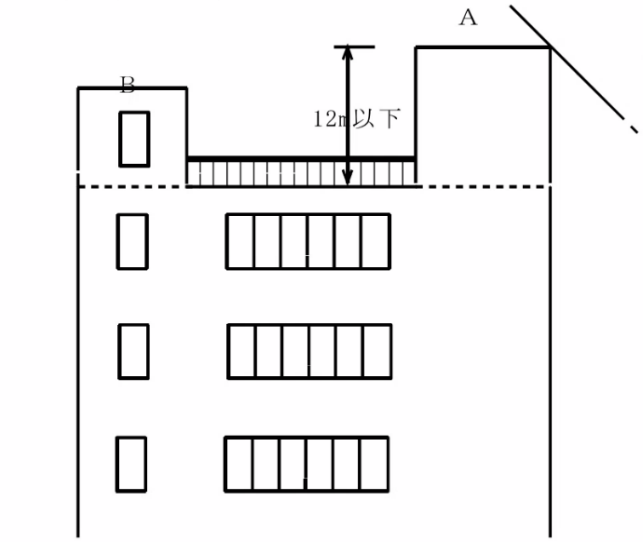


A＋B ≦ 1／ 8 ×（建築面積）

ただし、北側斜線は a を採用

3．パーキングタワー

パーキングタワーの高層部分は建築物の屋上に突出する部分ではないので、令第２条第１項第６号の適用はない。

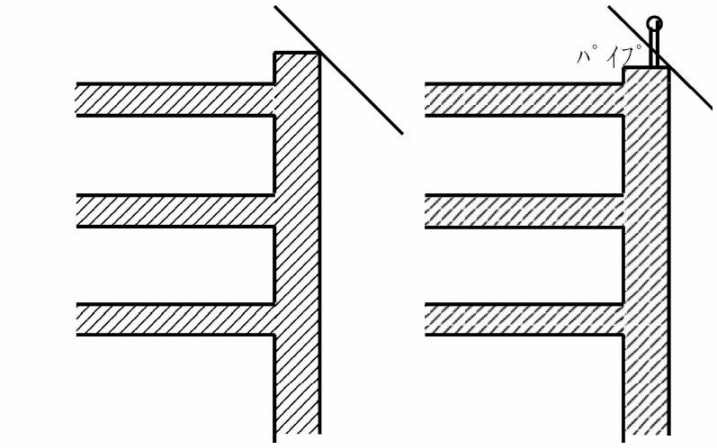


A＋B≦１／８×（建築面積）

4．パラペット

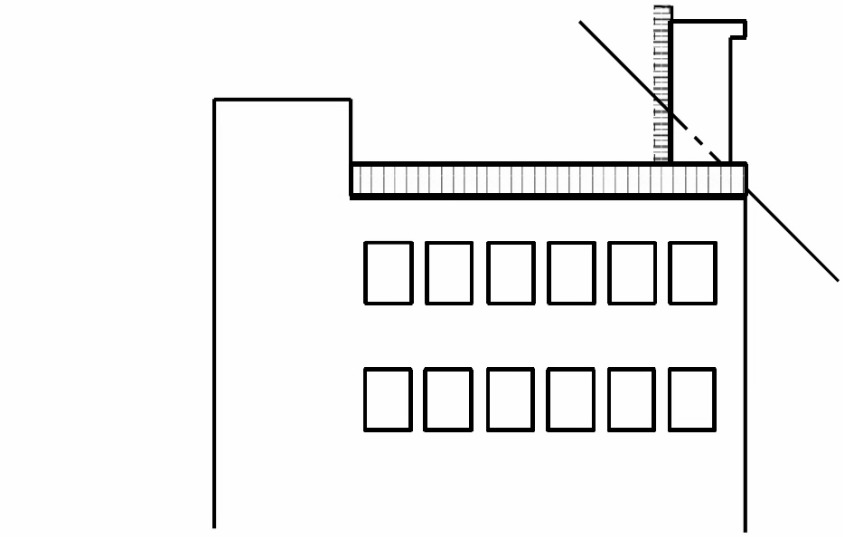
コンクリート等のパラペットは外観上軽微な屋上突出物とは言えず斜線制限の対象となる。

パイプ、金網等で見透しがきき、制限の趣旨に影響を及ぼさないものは斜線制限の対象としないことができる。



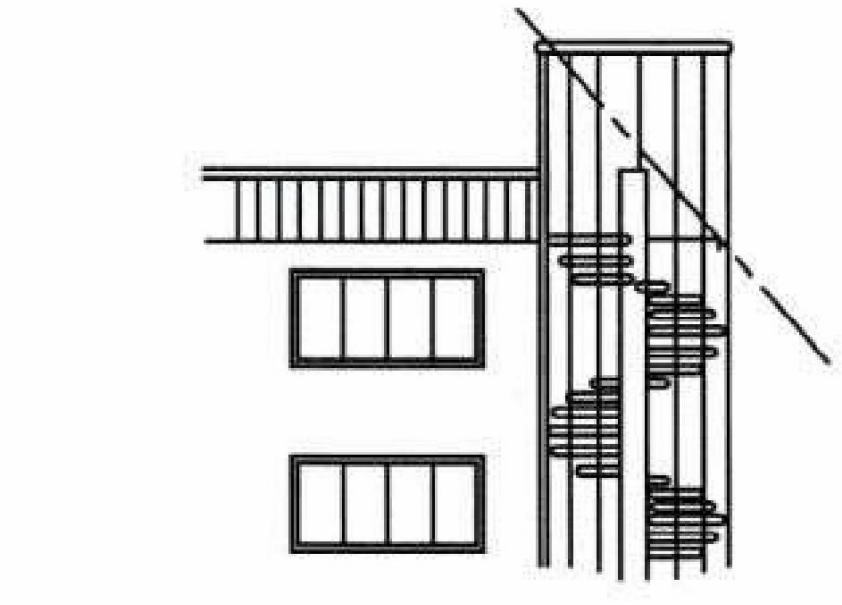
５．煙突、避雷針等

建築物の屋上に設けられる煙突、避雷針等の建築設備は、制限の趣旨に影響を及ぼさない軽微なものとして斜線制限の対象としない。



６．屋外階段

建築物の部分であり、パイプ等で作られている場合であっても、令第２条第１項第６号の適用は屋上部分に限る。



（建築基準法質疑応答集（第１法規）　建設省住宅局内建築基準法研究会編）